

目 次

国語 Vol.3

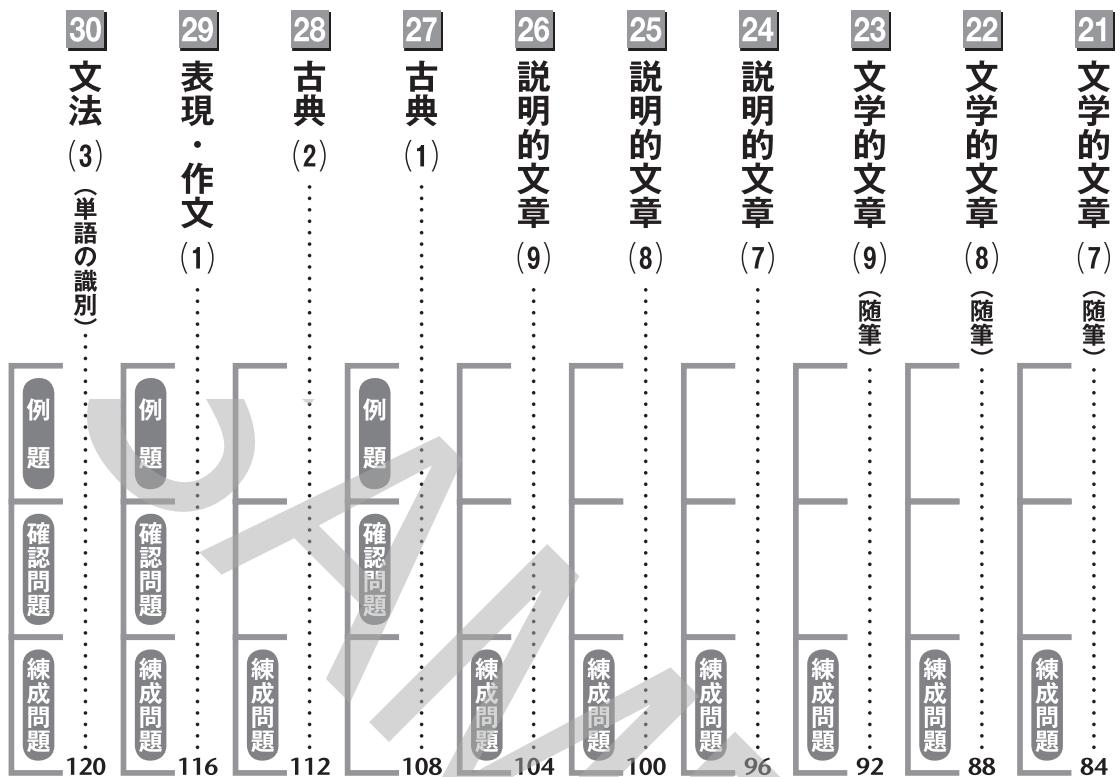
第一章 習得編

1 文学的文章 (1) (隨筆)	例題	確認問題	練成問題	4
2 文学的文章 (2) (隨筆)	例題	確認問題	練成問題	8
3 文学的文章 (3) (隨筆)	例題	確認問題	練成問題	12
4 說明的文章 (1)	例題	確認問題	練成問題	16
5 說明的文章 (2)	例題	確認問題	練成問題	20
6 說明的文章 (3)	例題	確認問題	練成問題	24
7 詩 (1)	例題	確認問題	練成問題	28
8 詩 (2)	例題	確認問題	練成問題	32
9 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／熟語の知識)	例題	確認問題	練成問題	36
10 文法 (1) (文の組み立て)	例題	確認問題	練成問題	40

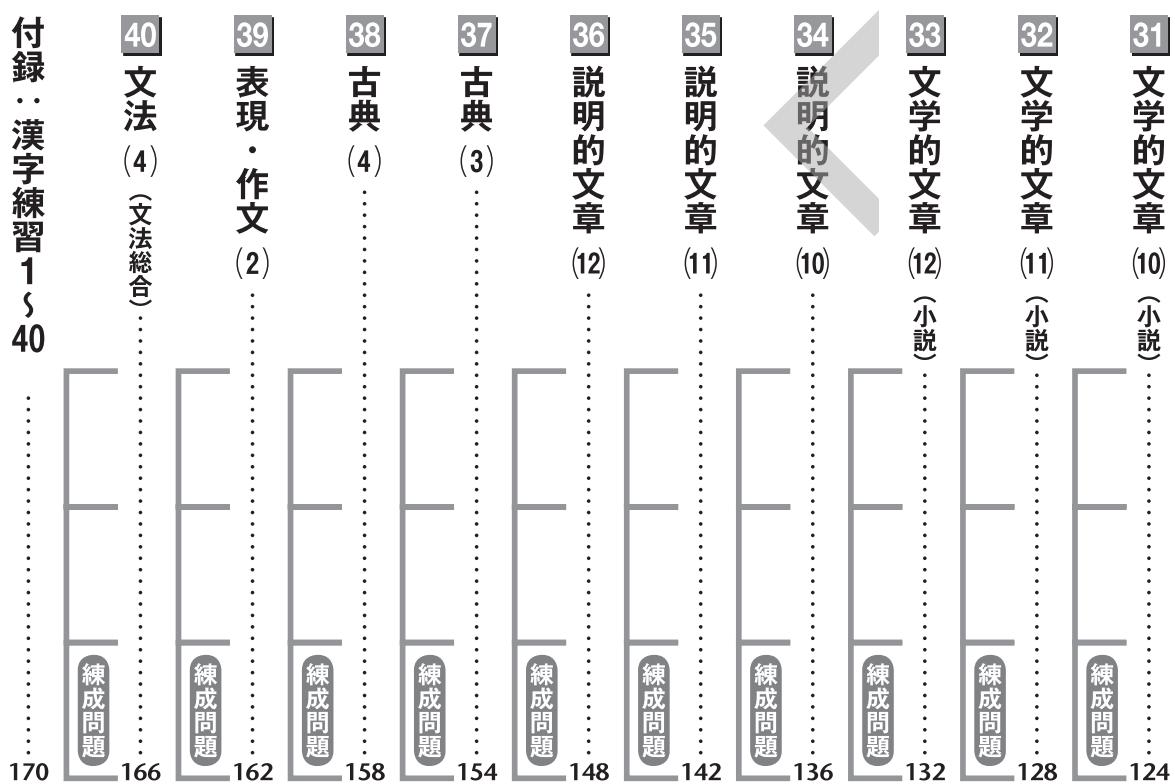
第二章 定着編

11 文学的文章 (4) (小説)	例題	確認問題	練成問題	44
12 文学的文章 (5) (小説)	例題	確認問題	練成問題	48
13 文学的文章 (6) (小説)	例題	確認問題	練成問題	52
14 説明的文章 (4)	例題	確認問題	練成問題	56
15 説明的文章 (5)	例題	確認問題	練成問題	60
16 説明的文章 (6)	例題	確認問題	練成問題	64
17 短歌・俳句 (1)	例題	確認問題	練成問題	68
18 短歌・俳句 (2)	例題	確認問題	練成問題	72
19 漢字・語句 (2) (類義語・対義語／ことわざ・慣用句など)	例題	確認問題	練成問題	76
20 文法 (2) (品詞の分類ほか)	例題	確認問題	練成問題	80

第三章 演習編



第四章 実戦編





第一章 習得編

1 文学的文章 (1) (随筆)

例題 1

- (1) この文章全体を大きく三つの意味段落に分けるとすると、第二段落はどこからどこまでですか。
- (2) 線部「それ」はどんなことを指していますか。

解法のポイント

(1) **指示語** 文学的文章の場面を読み取るためには、指示語が何を指しているかをつかむことが大切です。多くの場合、「それ」はすぐ前の内容(事柄)を指します。ここでは「ミミズをトカゲに投げてやつたこと」を指しています。

段落構成

(2) 文学的文章では、場面の変化によって段落が決まります。場面の変化は、**時間**、**場所**、**登場人物**、**心情の変化**として表現されますので、これらの点に注意しましょう。ここでは、主に時間の経過によって、場面は分けられます。

第一段落 (草むしりをしていて～おかげでならないだろう) ……現在、庭のトカゲと「わたし」はきわめて親しい間柄だ。(現在のこと)

第二段落 (それはもう一昔前～座っていた) ……一昔前、「わたし」は知人の家の庭で放し飼いにされている牛蛙を見た。(回想)

第三段落 (トカゲにミミズを～考えたのだった) ……一昨年、「わたし」はあの牛蛙のことを思い出し、トカゲを飼いならしてみようと考えた。(回想)

（広中平祐「学問の発見」より）



- （1）——線①「私の給金を仏壇に供えると、私を隣に座らせて、『さあ、拝め』と父はいった」とあります。この時の「私」はどんな気持ちでしたか。書いて答えなさい。
- （2）——線②「父のそのような身の処し方」とあります。「そのような身の処し方」をする父は、どんな人だったと思われますか。書いて答えなさい。
- （3）「私」が、この文章で最も言いたかったことは何ですか。書いて答えなさい。

解法のポイント

（1）**心情** 全体の話の流れから、人物の心情を読み取ります。ここでは、すぐあとに「その時の私は、／＼合点がいかなかつた」と説明していますから、その部分をまとめて「父のおおげさな喜び方を不審に思ふ気持ち」とします。

（2）**性格** 人物の言葉や行動から、性格をつかみます。ここでは前の段落に「生きる」ということは、「父は示したのだ」と述べられているので、ここをまとめます。「私」の初給料に対する父の態度からも、父は「自分一人の力で稼ぎ、食べることが人間の値打ちであり、強さであるという信念を持ち続けた人」だつたといえます。

（3）**主題** 最後の段落をまとめます。「身の処し方」は「生き方」くらいに考えるとよいでしょう。「『私』が、自分で稼いで自分で食べるという父の信念を、自分の人生にも生かしてきたということ。」が、この文章の主題です。

確認問題

1 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

られていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 時計がないと、時間を能率的・効率的に使えず、無駄な一日を過ごすことになるということ。

イ 時計を持っていなくても、日常生活において、特に支障は生じないとということ。

ウ 日本の社会でも、農業従事者が大部分を占める地域では、時計の普及が遅れているということ。

エ 高齢者のように仕事を持たない人であれば、時計を持たなくとも生活していくけるということ。

(3)

内容理解

線③ 「おおまかなくくり方」とあります。時を大まかにくくる人々の暮らしぶりが書かれた部分を本文中から二十九字（読点も字数に数えます）で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。

(4)

表現内容

線④ 「時のたつのも忘れて」ということの具体例として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 宿題は明日やればいい、明日やればいいと思つてているうちに、夏休みの最終日になった。

イ 友達に会う予定があつたのにもかかわらず、うつかり待ち合わせの時間を見失った。

ウ 朝からずっと読書に夢中になつていて、気がついてみれば夕方になつていた。

エ 三年ぶりに会つた幼なじみと、三年間の空白を気にせずに、以前と同じように話すことができた。

(2)

要旨——線② 「小さな農村で高齢者に対して生活時間調査を試みてうまくいかなかつたという話」は、どういうことを説明するために述べ



〈袖井孝子「時間の話」より〉

(1)

内容理解——線① 「時間によつて自らの行動を律しよう」という考え方を言いかえていることばを本文中から十二字で書き抜いて答えなさい。

い。

2 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

〈竹西寛子「ひとつとや」より〉

(1) 内容理解 ── (※)に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- (1) 表現内容 ── 線① 「ものが所を得てゐるさま」とは、どういう様子ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
ア 箸のサイズが、人の手の大きさによく合っている様子。
ウ 茶碗が、人の片手の中にぴったりと収まっている様子。

- (2) 表現内容 ── 線② 「つつましい朝食」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
イ 人の背筋が、食事のときに、しゃんと伸びている様子。
ウ 箸が、人に上手に使われ、精妙にはたらいている様子。

- (3) 語句理解 ── 線③ 「つましい朝食」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 上品で優雅な朝食。
イ 楽しげで明るい朝食。
ウ 控えめで質素な朝食。

主題 本文中から読み取れる「私」の思いについての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人の食事を頼もしく支え続け、また、使う人のその時の状態を表す鏡にもなる箸に愛着を抱いている。
イ 和服姿や純日本建築が珍しくなるとともに、箸の使われる機会がめっきり減ってしまったことを嘆いている。
ウ 気持ちが緩んだり屈したりしているようなとき、箸がその気持ちをしゃんとさせてくれることに感謝している。
エ 病気や老いに屈することなく、自分の体の部分のように違和感なく箸をあつかう日本の老人の姿に感心している。

